

小学校国語科学習用語の理解状況調査と考察 — 某公立小学校のケースから —

Do Pupils Understand Meta-Language? — A Case Of One Public Elementary School —

金丸 洋子*

要旨

国語科では、知識・技能を習得し活用する力を育むことが求められている。改訂版小学校国語科教科書の中には、「学習に用いる言葉」(学習用語)を選定し、端的な語義説明や解説を提示している教科書が見られるようになった。児童を対象に教科書上に提示された「学習に用いる言葉」の理解度調査を実施した。その結果から、「学習に用いる言葉」として提示する効果、個々の言葉により理解度が大きく異なること、教師の課題等をとらえることができた。

キーワード：小学校学習指導要領国語(elementary school government guidelines for teaching Japanese) / 言語活動の充実(substantial language activities) / 学習用語(meta-language)

1 はじめに

2008年の中央教育審議会の答申では、児童生徒の課題改善の基本的な考え方の一つとして、思考力・判断力・表現力等の育成をあげている。その基盤となる言語に関する能力の育成のために、「言語活動の充実」を掲げている。そして、具体的には、国語科はもちろんのこと、各教科において、日常生活に必要とされる「対話、記録、報告、要約、説明、感想などの言語活動を行う能力を確実に身に付ける」といった学習活動に取り組む必要があると指摘している。それを受けて、学習指導要領の改訂が行われた。

2011年4月1日から改訂小学校新学習指導要領が全面実施となった。小学校国語科では、目標の変更はなかったが、小学校低・中学年で、音読・暗唱・漢字の読み書き等の基本的な力を定着させるために、授業時数が増えた。内容の構成は、「話

すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域は同じだが、「言語事項」が「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に改められた。そして、3領域では、「基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けることができるよう」に、前述の6つの言語活動を具体的に例示し、「言語活動の充実」を図っている。言語の教育としての立場がより重視されてきている。

指導要領の改訂を受けて小学校国語科教科書が改訂された。国語教科書によっては、身につけるべき知識・技能を表す語句について、その意味を端的に示しさらに内容を整理して提示してある。光村図書出版の小学校国語科教科書では、そのような語句を「学習に用いる言葉」としてある。国語3上(平成23年度版)にある一例をあげる。「段落」とは何かを初めて学ぶ単元「読んで、かんそうをもとう」の中で、次のように言葉の意味と説明を囲みという形式で提示してある。「段落 文章を組み立てているまとまり。はじめを一字下げて表す。」

* KANAMARU, Yoko
北陸学院大学 人間総合学部 幼児児童教育学科
家庭科・国語科

「文章と段落 文章は、ふつう、『はじめ・中・おわり』の大きなまとまりに分かれています。大きなまとまりは、一つの段落でできていることも、いくつかの段落があつまってできていることもあります。一つ一つの段落には、それぞれ、ひとまとまりの内容が書かれています。」¹⁾

単元の冒頭で「段落」を言語の知識として端的に示し、単元の終わりの手引き欄で「文章と段落」を関連させて整理して概念を認知させ、操作・運用する技能や態度につなげて、児童に身に付けさせたいという意図がみえる。

高等教育機関において、基礎・基本的な言語能力が身に付いていない学生が問題になる中で、国語科学習のスタートである小学校段階では、どのような言葉が「学習に用いる言葉」として教科書に選定されているのか、また、児童が「学習に用いる言葉」をどの程度理解しているのか疑問に思い、光村図書小学校国語科教科書をもとに調査を試みた。

2 学習用語に関する先行研究から

1988年刊『国語教育研究大辞典』では、「学習基本語彙」を「国語科で取り上げるべき基本語彙」ととらえ、小中学生が自らの文章表現に使用するために学習する語の集まり」と定義している。さらに、「国語科で取り上げるべき基本語彙」は5種の集合体として把握され、その中の(1)学校教育のための語彙は、児童・生徒が円滑に学校教育を受けるための語彙で、「学校用語」「授業用語」「国語科専門用語」の3種に分けられるとある。その3種の中で「国語科専門用語」の解説として、「国語科の学習を円滑かつ効果的に行うために必要な言葉のうち、生徒が国語科の学習で使用する国語科固有の言葉。広義には、指導者が国語科の学習指導上使用する言葉も含む。」²⁾とある。

「国語科専門用語」の選定と指導の提唱者である甲斐陸朗氏は、光村図書出版国語科教科書を調査対象として「小学校国語科専門用語」303語を選定し提示している。

成田雅樹氏は「小学校国語科専門用語の理解度調査と考察」の中で、平成14年版光村図書、教育出版、東京書籍の教科書を対象として調査し、「国語科専門用語候補」として339語を選定して

いる。

大熊徹他編著の『子どもが生きる国語科学習用語』では、「国語科学習用語」のとらえとして、「国語科において必要な学習内容や学習方法を表す国語科固有の言葉であり、国語科の学習を円滑かつ効果的に行うために、子どもが国語科の学習で獲得し、使用していく言語である。」³⁾としている。指導者が学習指導上必要な言葉も選定している「国語科専門用語」とは、近い意味の言葉としながらも、著書の「学習用語」とは異なるとしている。そして、平成23年度版小学校全教科書(光村図書、東京書籍、教育出版学校図書、三省堂)を対象に調査し、「国語科学習用語」として「国語科学習用語候補」9,744語の中から、140語を選定している。

柳谷直明著『<学習用語のカテゴリー化>で<国語学力>を育てる』では、学習用語の定義を「学習用語とは国語科で扱う言語活動を適正に成立させるため、目の前の学習者にとって育てる必要がある言語活動を適正にするための主な手続きとしての定型と技術を指すメタ言語である。」⁴⁾とある。学習者対象に指導すべきメタ言語という点では、前述の大熊氏たちのとらえに近いと考えられるが、その選定の考え方や指導方法については異なる。小学校国語科「言語活動」系統案として、学年別、領域別「言語活動」を336例と、その活動を適正に成立させるための言語を「学習用語」として選定し、カテゴリー化した「小学校国語科<学習用語>体系案」を提示してある。

1981年初版刊輿水実著『新国語科教育基本用語辞典』には、教育語彙、学習基準語、学習基本語等は、「学習させるべきという立場から選定された語」として解説がある。しかし、本稿で取り上げている「学習専門用語」「学習用語」のような児童側に立ったとらえ方の言葉の提示はない。それぞれ名称は異なっているが、「学習専門用語」「学習用語」のようなとらえ方で、用語の選定や指導の必要性が研究として取り上げられるようになったのは、歴史が浅く1981年以降である。

3 調査「学習用語」の選定と調査方法

(1) 調査目的

小学校国語科教科書に「学習用語」として提示

してある語句について、初出学年及び既出学年における児童の理解度を調査し、小学校段階での理解状況を把握し国語科教育に資する。

(2) 調査対象

公立小学校1校を選定し、普通学級全校児童317名を対象に調査を依頼した。

(3) 調査実施日

2013年(平成24年度)2月18日～22日の期間に各学級担任が調査を実施した。

(4) 学習用語の選定と調査方法

石川県内全市町村で採択されている平成23年度版光村図書出版国語教科書をもとに、調査する言葉を選定した。同社の児童用教科書、ワークシート集に、囲み等の形式で端的な意味や説明のある言葉、「学習に用いる言葉」として再掲してある言葉、「学習に用いる言葉」として一覧表にしてある言葉を調査用語候補とした。その中から5年生までの言葉を中心に89語を調査する言葉として選定した。調査する言葉と調査学年は、選定した言葉の初出学年から6年生までを原則としたが、紙面や数の関係で割愛した言葉や調査学年を変更した言葉がある。

同社『3年ワークシート集』には、「学習に用いる言葉」について「1.2年生で身につけてきた大事な言葉です。意味をたしかめて、学習に役立てましょう。」と説明がある。6年教科書には、「国語の学習で、よく使う言葉を集めてあります。意味をしっかりと確かめて、毎日の学習や活動に役立てましょう。」と説明がある。これらのことから、前述の大熊氏の「国語科学習用語」のとらえと光村図書国語教科書の「学習に用いる言葉」は同義をとらえ、以後、「学習に用いる言葉」を「学習用語」と略する。

1・2年生は、学習用語にあてはまる解説文を選択して番号を記述する方法で行った。3年生から6年生は調査する言葉数が多いため、意味の分かる言葉には○、意味の分からない言葉には×で回答する自己申告制で行った。3年生以上では学習用語の意味を正しく理解しているかどうかまでは不明だが○回答をもって意味を理解しているとみなした。そして、1・2年生では正答が全体に占める割合を、3年生以上では○回答が全体に占める割合を、理解度とした。調査学年、調査学

級、調査した言葉別に理解度の平均を表したものをそれぞれの平均理解度とした。

また、調査用紙には、対象学年に合わせてひらがな表記や漢字にふり仮名をつけて、読めないことで×回答をすることのないようにした。低学年においては、担任に説明の補足や個への支援を依頼した。調査回答人数及び調査語句数(初出語数)は次の通りである。

1 学年	2 学級	46名	6語 (6語)
2 学年	2 学級	49名	15語 (9語)
3 学年	2 学級	44名	52語 (37語)
4 学年	2 学級	58名	76語 (24語)
5 学年	2 学級	57名	83語 (7語)
6 学年	2 学級	63名	89語 (6語)

4 調査結果表の見方について

表1の語句別理解度調査結果表は、語句別・学年別に理解度を示した表である。理解度は小数第3位を四捨五入した割合で示してある。

項目アは言葉が初出した教科書ページ、イは初出の方法、ウは初出した領域を示す。話・聞は「話すこと・聞くこと」領域、書くは「書くこと」領域、読むは「読むこと」領域、伝・国は「伝統文化と国語の特質に関する事項」を表している。*の印は調査していない学年を示す。項目エは、各語句における学年理解度の平均の値を示している。項目オは、学習用語選定語句の比較参照として、大熊氏等が「国語科学習用語」整理表に示してある学習用語と同じ言葉を、●印で示してある。

表1 語句別理解度調査結果表

	学習に用いる言葉	ア	イ	ウ	1年%	2年%	3年%	4年%	5年%	6年%	工%	才
1	題名	1下 16	囲み	読む	87	90	100	100	100	98	96	●
2	作者	1下 16	囲み	読む	74	92	100	98	100	98	94	●
3	訳者	1下 56	囲み	読む	70	88	66	64	79	68	72	●
4	昔話	1下 32	題・本文	読む	83	*	100	98	100	100	96	
5	質問	1下 84	本文	話・聞	80	*	95	95	100	97	93	●
6	丸・点	1上 13	囲み	伝・国	85							
	丸・点・かぎ	2上 13	囲み	伝・国		77	98	98	96	97	92	
7	音読	2上 13	囲み	読む	*	96	100	98	100	100	99	●
8	人物	2上 13	囲み	読む	*	92	98	100	100	100	98	
9	順序	2上 20	リード文	読む	*	*	68	79	91	95	83	●
10	わけ	2上 26	囲み	読む	*	94	98	100	91	92	95	
11	説明	2上 28	リード文		*	67	98	97	100	92	91	●
12	記録	2上 30	単元名	書く	*	83	96	93	100	100	94	●
13	連絡	2上 42	手引き	話・聞	*	*	91	91	98	97	94	
14	感想	2上 46	単元名		*	*	98	98	100	100	99	●
15	はじめ・中・終わり	2上 61	本文	書く	*	*	96	95	98	97	96	●
16	発表	2上 98	単元名	話・聞	*	46	98	98	100	97	88	
17	組み立て	2上 101	本文		*	*	81	67	93	87	82	●
18	音読劇	2下 4	単元名	読む	*	*	93	79	72	59	76	
19	主語・述語	2下 19	コラム	伝・国	*	77	98	90	95	94	91	
20	送り仮名	2下 23	コラム	伝・国	*	92	100	97	98	98	97	
21	紹介	2下 26	単元名	書く	*	48	98	98	98	98	88	●
22	理由	2下 61	手引き	読む	*	*	100	100	100	92	98	
23	話し合い	2下 61	囲み	話・聞	*	*	98	100	100	98	99	●
24	あらすじ	2下 108	囲み	読む	*	81	93	97	91	89	90	●
25	文集	2下 114	単元名	書く	*	77	71	59	60	89	71	
26	場面	3上 19	囲み	読む	*	*	98	100	100	97	99	●
27	登場人物	3上 19	囲み	読む	*	*	98	100	100	98	99	●
28	音と訓	3上 27	題名	伝・国	*	*	100	97	98	97	98	
29	段落	3上 38	囲み	読む	*	*	96	100	100	100	99	●
30	問いと答え	3上 38	囲み	読む	*	*	96	90	97	94	94	
31	まとめ	3上 38	囲み	読む	*	*	84	74	86	89	83	
32	短歌・俳句	3上 50	手引き	伝・国	*	*	96	97	84	94	92	
33	文語	3上 48	注釈	伝・国	*	*	59	38	24	54	44	
34	報告	3上 52	単元名	書く	*	*	98	88	98	92	94	●
35	句読点	3上 59	コラム	伝・国	*	*	84	91	90	97	90	
36	筆者	3上 81	囲み	読む	*	*	86	98	100	95	95	●
37	引用	3上 91	囲み	話・聞	*	*	43	55	75	70	61	●
38	連	3上 105	手引き	読む	*	*	84	98	54	100	84	●
39	インタビュー	3上 115	囲み	話・聞	*	*	98	98	98	98	98	●
40	発表メモ	3上 112	本文	話・聞	*	*	96	100	98	92	96	●
41	司会	3上 110	本文	話・聞	*	*	89	100	100	98	97	●
42	賛成反対付け足し	3上 110	本文	話・聞	*	*	98	91	97	100	96	
43	へんとつくり	3上 116	コラム	伝・国	*	*	80	91	93	97	90	
44	修飾語	3下 24	コラム	伝・国	*	*	89	81	86	89	86	

小学校国語科学習用語の理解状況調査と考察

	学習に用いる言葉	ア	イ	ウ	1年%	2年%	3年%	4年%	5年%	6年%	工%	才
45	民話	3下 43	囲み	読む	*	*	59	62	61	69	63	
46	小見出し	3下 80	囲み	読む	*	*	86	91	84	78	85	●
47	こそあど言葉	3下 82	手引き	伝・国	*	*	88	83	91	81	86	
48	事典・図鑑	3下 90	本文	読む	*	*	100	65	100	97	98	
49	科学読み物	3下 90	本文	読む	*	*	68	90	79	78	79	
50	目次・さくいん	3下 91	本文	読む	*	*	96	97	88	94	93	
51	会話文と地の文	3下 118	囲み	読む	*	*	80	46	50	60	59	●
52	語り手	3下 110	囲み	読む	*	*	48	66	81	83	69	●
53	提案者	4上 31			*	*	*	72	98	94	88	●
54	事実・説明・筆者の 考えの関係	4上 36	リード文	読む	*	*	*	91	88	78	86	
55	アンケート	4上 50	リード文	書く	*	*	*	98	98	100	99	●
56	表・グラフ	4上 50	リード文	書く	*	*	*	98	100	100	99	
57	作品の特色	4上 74	囲み	読む	*	*	*	76	86	84	82	
58	根拠	4上	?	?	*	*	*	91	86	90	89	●
59	新聞/割り付け	4上 80	本文	書く	*	*	*	83	68	78	54	
60	分類・整理	4上 111	囲み	話・聞	*	*	*	83	68	87	79	
61	場面の移り変わり	4下 22	本文	読む	*	*	*	93	97	86	92	
62	慣用句	4下 28	コラム	伝・国	*	*	*	79	84	83	82	
63	段落どうしの関係	4下 30	リード文	読む	*	*	*	84	79	89	84	
64	リーフレット	4下 38	下段・注	書く	*	*	*	76	23	19	39	
65	取材	4下 38	本文	書く	*	*	*	98	100	94	97	●
66	人物の性格	4下 54	本文	読む	*	*	*	97	97	97	97	
67	感想文	4下 54	単元名	読む	*	*	*	98	100	98	97	●
68	つながり言葉	4下 61	本文	伝・国	*	*	*	98	81	86	88	
69	接続語	4下			*	*	*	62	65	94	74	
70	熟語	4下 70	コラム	伝・国	*	*	*	84	91	98	91	
71	要約	4下 83	囲み	読む	*	*	*	98	100	98	80	●
72	かじょう書き	4下 86	囲み	話・聞	*	*	*	91	89	91	92	●
73	聞き取りメモ	4下 85	題名	話・聞	*	*	*	97	98	100	98	●
74	ことわざ	4下 92	囲み	伝・国	*	*	*	100	95	94	96	
75	故事成語	4下 92	囲み	伝・国	*	*	*	52	11	29	30	
76	感想の交流	4下 98	本文	書く	*	*	*	74	74	97	82	●
77	人物像	5 24	手引き	読む	*	*	*	*	89	83	86	●
78	要旨	5 47	囲み	読む	*	*	*	*	88	98	94	●
79	古典	5 49	本文	伝・国	*	*	*	*	75	79	77	
80	伝記	5 71	手引き	読む	*	*	*	*	95	89	92	●
81	統計	5 139	下段・注	書く	*	*	*	*	51	57	54	
82	提案書	5 150	囲み	書く	*	*	*	*	98	95	96	●
83	推せん	5 180	題名	話・聞	*	*	*	*	88	94	91	●
84	共通語・方言	5 207	本文	話・聞	*	*	*	*	72	86	79	
85	討論	5 91	題名	書話聞	*	*	*	*	*	98	98	●
86	表現	5 121	囲み	読む	*	*	*	*	*	98	98	
87	意図	5 128	リード文	読む	*	*	*	*	*	87	87	
88	構成	5 128	リード文	読む	*	*	*	*	*	95	98	●
89	推	6 51	本文	書く	*	*	*	*	*	78	95	●

5 結果と考察

同教科書の「学習用語」は、「学習指導要領解説」(平成20年8月)に取り上げられている語句と一致する。同教科書では、改訂学習指導要領の趣旨を受けて、身に付けて活用することをねらいとして「学習用語」を選定してあると想定した。よって、本稿では平均理解度が80%以上を満足できる割合ととらえる。また、個々の語句については、平均理解度が95%以上の言葉は、意味を理解し活用しているととらえ、児童にとって易しい言葉とする。80%未満の言葉は、指導方法の改善が望まれる言葉ととらえ、児童にとって難しい言葉とする。以下に、易しい言葉、難しい言葉を中心として考察を試みた。

(1) 学年別平均理解度について

学年別平均理解度は、1学年80%、2学年80%、3学年89%、4学年87%、5学年86%、6学年89%である。全学年80%以上で満足できる状態である。低学年が上級学年と比較して低い結果だったのは、調査方法が自己申告制ではなく、選択制のためと考えられる。

学級担任制であり、国語の授業は学級担任が指導している。同学年学級別平均理解度の差は、1学年6%、2学年6%、3学年8%、4学年7%、5学年4%、6学年8%で、差は10%未満である。学級集団が必ずしも等質でないことから考えると10%未満の差は容認できる差と考えられる。また、平均理解度の高い学級の担任に、経験年数や国語科への関心が高い等の共通した要因は見られなかった。

(2) 各言葉の理解度について

・1学年

「だいめい」の正答である「おはなしやぶんしょうにつけたなまえ」を選択した児童は87%である。平均理解度は96%と高い。国語科の各領域をはじめ、学習や生活の中で日常的に使われている易しい学習用語と言える。

「やくしゃ」の正答である「がいこくのおはなしを、にほんごのおはなしになおした人」を選択した児童は70%である。19%の児童が「やくしゃ」と「さくしゃ」を取り違えて選択していた。2年生では、「ある国の文章を、ほかの国の言葉に直

す人」という正答を選択した児童が88%である。しかし、自己申告制の3年生以上では60%台の低い学年が見られ、平均理解度が72%にとどまり指導改善が望まれる言葉である。授業の中で訳者名を取り上げていないことや児童の関心が低いことが考えられる。平成4年度版(1992年)から翻訳物語が教材として取り上げられているが、教科書には「訳者」の用語説明はない。23年度版には、「学習用語」として説明がある。教師が授業の中で取り上げた結果として、2年生の高い理解度につながったのではないかと考えられる。また、2,5,6年生の学級別平均理解度に20%以上の差がみられることから、教師の指導が結果に影響していることが伺える。

・2学年

易しい言葉として、「音読」「人ぶつ」「わけ」「おくりがな」が挙げられる。「人ぶつ」の正答は、「物語の中に出てくる人。人間のように動いたり考えたりする生き物や物」である。「人物」が学習用語として身につけていることが、物語の世界を楽しむことや3年生で初出する「登場人物」4年生の「人物の性格」「人物像」の高い理解度につながっていると考えられる。

「文集」の正答である「いろいろな文しょうを集めて本にしたもの」を選択した割合は77%と低い。3年生以上で○回答が50%台の学年もあり、全体の平均理解度は71%で難しい言葉といえる。教材価値の変化や時間・手数がかかる学習活動であるため、文集をつくる学習活動を体験していないことが低率の一因として考えられる。6年生が89%と高いのは、卒業文集製作に取り組んだためと考えられる。各学年とも平均理解度についての学級差は見られなかった。

・3学年

「場面」「登場人物」「段落」は平均理解度99%で高く、易しい言葉と言える。4・5年生では3語とも100%示している。児童にとっては学習の中で頻繁に使う言葉であり、教師にとっては指示や発問の際、他の言葉に置き換えにくい言葉である。また、「筆者」「インタビュー」「発表メモ」「司会」「事典・図鑑」「音と訓」も平均理解度95%以上で易しい言葉と言える。

「文語」は全体の平均理解度44%と低い。初出

学年の3年生が理解度59%で上級学年より高く、逆転現象が見られる難しい言葉である。平成23年度(2011年度)から伝統的な言語文化の指導が始まったことにかかわる言葉であり、上級学年にとっても初出の言葉である。

「引用」「民話」「科学読み物」「会話文と地の文」「語り手」も難しい言葉である。全学年の教科書に「昔話」があるのに比較して「民話」は3年生だけである。また、両者の違いを明確に把握していないことも理解度に影響していると考えられる。

「会話文と地の文」「語り手」は同単元に初出し関連させて説明がある言葉である。この2語の理解度を比較すると、初出の3年では「会話文と地の文」の方が「語り手」より理解度が38%高い。それに対して上級学年は「語り手」が「会話文と地の文」より高い結果がでていいる。3年生では、「会話文と地の文」の理解度の学級差が40%と大きい。登場人物の人柄や気持ちを読むときに、「会話文と地の文」を手掛かりにした学級としなかった学級との差と考えられる。

・4学年

「アンケート」「表・グラフ」「人物の性格」「取材」「感想文」「聞き取りメモ」「ことわざ」は理解度が95%以上で易しい言葉と言える。

全体の平均理解度が「新聞・割り付け」54%「分類・整理」79%「リーフレット」39%は難しい言葉である。「新聞・割り付け」は初出学年の4年生で40%という結果から、書く領域「新聞を作ろう」の学習で、実際に新聞を作る学習活動を経験していないことが考えられる。同じように学習活動の経験が理解度に影響していると考えられるのが、4年75% 5年23% 6年19%の「リーフレット」である。また、「要約」は、4年生97% 6年生94%の高い理解度なのに対して、5年生が51%と低いのも同じ理由が考えられる。

「故事成語」も全体の平均理解度30%と低く難しい言葉である。初出の4年生が51%に対して、5年生が10%と極端に低い。その5年生における2学級の理解度は21%と0%で、学級差が大きい。今回の改定で小学校でも指導するようになった「故事成語」に対して、担任の判断で指導しなかったことが0%という結果に表れていると考えら

れる。しかし、「故事成語」と同単元で初出する「ことわざ」が易しい言葉という調査結果からは、指導に関わらず、児童にとっては「故事成語」が難しい言葉であることが伺える。

「つなぎ言葉」の理解度は、初出の4年生98%で5.6年の方が低い。逆に「接続語」の理解度は6年生94%で4.5年生の方が低い。このことから、教師自身が、学習指導の中で、「接続語」「つなぎ言葉」をはっきりと使い分けていないことや、6年生では「接続語」を使うことが多くなっていることが考えられる。「接続語」の初出学年は教科書を調べても確認できなかったが、同社小学校国語ワークシート集5年に、4年生の学習で身につけた「学習に用いる言葉」として「接続語」があったため調査語句とした。同じ理由で「根拠」という言葉も調査語句とした。

「要約」の全体の平均理解度は80%であり満足できる割合ととらえる。しかし、4年97%・6年93%と高いが、5年51%と極端に低い。学力における学年児童の特徴だけでなく、何らかの指導上の課題があると考えられる。

・5学年

「古典」77%「統計」54%「共通語・方言」79%で、難しい言葉と言える。「古典」は前述の「文語」「故事成語」「ことわざ」「慣用句」と同じ「伝統的な言語文化」に関する言葉である。3年初出「文語」の説明は『『ながき』『くらしつ』』など、昔の形がのこっているものを『文語』といいます。」とある。4年初出「故事成語」は、「故事成語 ことわざにいた短い言葉。中国に伝わる古い出来事や物語がもとになっている。」とある。「古典」は「長い年月を経て、今日まで読みつがれてきた作品を古典といいます。」とある。端的に分かりやすく説明してあるが、小学校では、教師にとっても児童にとっても言葉の認識の必要性をあまり感じない言葉だったと考えられる。

「統計」は平均理解度54%で難しい言葉と言える。現在は、文章を読むだけでなく表やグラフを読むことも読解力であると考えられるようになった。社会科や算数科においても、5年生で統計を活用することや統計的に考察することが求められている。5年生51%、6年生57%と理解度が上がっている。その6年生では、学級理解度の差が大きく、

社会科に関心の高い担任の学級が+27%高かった。これらのことから、学習機会の増加や他教科との関連指導が効果的と考えられる。

・6学年

「推敲」は、本文中に、「推敲 読み返したり、人に読んでもらったりして、よりよくする。」と、言葉の説明があり、その後記述・推敲の例が提示されている。5年生までは、視点を持たせて「読み直しましょう。」「書き終えたら確かめましょう」等の具体的な指示で学習が行われてきている。また、日常生活では耳にしない言葉である。難しい言葉という調査結果からも、全教科の学習で「推敲」という言葉を使用していくことが必要と考えられる。

(3) まとめ

各学年の調査語句の平均理解度は、全学年で80%以上、6年生では89%である。この結果から、小学校における国語の学習の理解に必要な語句を習得していると判断できるだろう。また、調査校における25年度全国学力・学習状況調査における[国語B：主として活用]の平均正答率が全国平均より+8.1%だったことから、国語の学習の理解に必要な語句を習得し活用していると考えられる。また、[算数B：主として活用]の平均正答率が全国平均より+8.8%だったことから読解力との関連も予想される。

国語教科書上に、「学習に用いる言葉」として提示し、児童には身に付けるべき大切な語として、教師には取り立て指導の必要な語としてアピールしたことが、理解につながっていると考えられる。

調査語句89語をのうち、児童にとって易しい語句、言いかえれば身に付いている語句と考えられる語句は31語、児童にとって難しい語句で定着しているとは言い難い語句は17語だった。易しい語句は、初出の後も学習の中で日常的に使用する語や他教科の学習でも使用する語に多く見られた。また、学年が進むにつれて理解度が高くなる語が多く、繰り返し学ぶ効果が伺える。

それぞれに対して平均理解度は高くても、学年や学級における理解度に大きな差があらわれる言葉が見られる。「学習に用いる言葉」においても、個々の教師の恣意的な見解や解釈による指導や国

語を不得意とする教師の指導が、児童の理解度に影響を与えることを示している結果ととらえられるだろう。

難しい語句は、改訂で新しく設けられた伝統的な言語文化に属する言葉や学習活動に関わる言葉に多く見られた。指導法の改善が求められると共に、教科書上で「学習に用いる言葉」とする選定基準の明確化や説明責任が求められるだろう。

表1の項目オで大熊氏等が「国語科学学習用語」整理表に整理した学習用語との比較結果からも、小学校国語科の「学習用語」については研究途上であることの一端が伺える。国語の学力は言語活動を通して育まれる。その言語活動で学力をつけるために、児童にとって学習に必要な語句を「学習用語」として提示することは、有効なことではないだろうか。よりいっそうの研究推進が望まれる。

6 終わりに

国語の力が本当についているのか、またどのように勉強すればいいのか分からないという児童からの声が聞こえることがある。今回の調査結果から、国語科の学習に必要な「学習用語」を身に付けることは、児童にとって言語の能力を育む一助になることが期待できると分かった。今回は一校をもとにした調査結果である。地域(県市町)を広げ、より多くのデータを集め、正確に分析を行うことを今後の課題としたい。

[付記]

謝辞：本研究の調査に際し、ご理解ご協力いただいた児童及び教職員の皆様に感謝申し上げます。

<参考文献>

- 大熊徹・片山守道・工藤哲夫 「子どもが生きる国語科学学習用語」 東洋館出版社 2013
- ・ 柳谷直明 「<学習用語>の<カテゴリー化>で国語学力を育てる」 明治図書出版株式会社 2004
 - ・ 国語教育研究所(編)「国語教育研究大辞典」 明治図書出版株式会社 1988
 - ・ 文部科学省「小学校学習指導要領解説国語編」 東洋館出版社 2008
 - ・ 光村 国語 小学校国語科用1年～6年 2011光村図

書出版株式会社

- ・ 光村図書出版株式会社「小学校国語ワークシート集
1年～6年」光村図書出版株式会社 2011
 - ・ 成田雅樹「小学校国語科専門用語の理解度調査と考
察」秋田大学教育文化学部研究紀要 2005
-

<注>

- ¹⁾ 光村図書出版 国語3上 P45
- ²⁾ 「国語教育研究大辞典」国語教育研究所編 P306
- ³⁾ 「子どもが生きる国語科学習用語」編著 大熊徹 片山
守道 工藤哲夫 東洋館出版社 P5
- ⁴⁾ 「<学習用語>の<カテゴリー化>で国語学力を育て
る」著 柳谷直明 明治図書 P27